

ダイエットに成功しました。



包みかく
さ
話します



左右にのっている牛乳びん、実は1本に入る量はまったく同じ。つまり右側のびんは左側の半分の重さしかありません。種も仕掛けもありませんが、「厚み」に大きな違いがあります。従来のびんよりもガラスを薄くし、樹脂のコーティングで強度を保っているのです。これによって、軽くなったにも関わらず再利用の回数も従来の約30回から60回まで飛躍しました。たとえば小学校の給食で出てくる牛乳。1クラス40本だとすると、この軽量びんにするだけで5キロも軽くなり、子どもたちはうんと運びやすくなります。軽くすることで、冷蔵庫から出した後など、結露ですべりやすいときでも落としくくなるはず。ガラスと一緒に、飲む人にかかる負担までシェイプアップしたのですね。びんで飲むと口当たりが柔らかく、ミルクの香りが目一杯楽しめます。そんな牛乳のおいしさを、未来へ伝えていくために生まれた軽量びん。体は軽いけれど、その使命は重いのです。

包容力がちがう。



東洋製罐グループホールディングス